

ならばい・たより

地元農家 行政 市民 三者協働による里山再生を目指します。

ゆいのさと
NPO法人まちだ結の里



3月からの活動、事象を時系列で記載していきます。

- 1) 3月16日(水)
ジャガイモの植付(700ヶ)終了→大部分<男爵>一部<<きたあかり>>
炭小屋 午前中屋根の骨組み終了
- 2) 3月19日(土)
午後になって雨が止んだら、多くの散策者が突如中央通路に出現、午後は運営会議開催
- 3) 3月23日(水) 水路の点検整備、畦の状態チェック、ムギ畑の除草と土よせ
- 4) 3月26日(土) 永井さんの知り合いの研ぎ師の方が、剪定バサミ2個とチェーンソー3台を仕上げてくれました。感謝! 永井さんより炭小屋の屋根の具体的な設置方法等の説明あり。



屋根の組み立て中



屋根の半分を持ち上げる



屋根の上の三人衆



引きます 押します

ふむふむいい出来だ

しっかりおさえてるよー。

5) 3月30日(水) 中央通路切通し横通路の整備←段差が大きく、自走運搬機が跳ねる土が流れるリスクはあるが、傾斜面に<フミシバ>を53個(30×30cm)を移植。苗床の土を細かく、耕耘機で破碎し、種蒔きへの準備



6) 4月2日(土) 塩水選(今回は真水で実施)種籾19kgは真水選後⇒16kgこれを7袋に分け、温湯消毒 炭小屋 2分割した屋根はほぼ完成 表と裏の結合部に化粧竹を設置



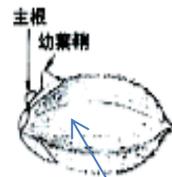
種籾



温湯消毒



水漬け



真水選：8分目ほど水を入れた青ポリバケツに、数回に分けてモミを入れ、沈んだものをザルに入れ、水切りして、網袋に小分けする。(沈んだ種が良いタネ、浮くのは未熟なタネ)

温湯消毒：種籾を56～60℃での湯に7～9分攪拌しながら消毒し、直ちに、冷水にて冷やす。

水漬け：水温：13℃ 水温×日数=100を目安にする、この積算温度で発芽(はと胸状態の種籾)

使用器具：竈1、寸胴鍋（大）1、青ポリバケツ2、金ザル（大）2、（小）1、柄杓、ボール2、
測り、温度計、杓、網袋7枚、攪拌棒、時計、（お湯の補充として、コンロ、電気ポット使用）

人数： 6名

7) 4月5日（火）恩田川成瀬駅より 花見会



NHK のロケ現場もありました。

8) 4月6日（水）炭小屋屋根のツナギ部分調整

ホダ場を春夏バージョンへ→ 遮光ネットの取り付け等

水曜日にも関わらず、散策者の多いこと、中央通路は文字どおりひっきりなしでした。北通路にも……



9) 4月9日（土）炭小屋の屋根の仕上げ、周辺の整理

サトイモの掘り出し・選別 畑地通路より緩斜面に作った室よりこいも約500 親芋数不明→午前中に終了
里山保全活動体験応募者への説明&谷戸の案内→鶴岡、伊藤



サトイモの掘り出し

炭小屋の屋根の仕上げ、周辺の整理



里山保全活動体験応募者と顔合わせ



竹の切り株
から筍

1 0) 4月13日(水) ホダ場の落葉を堆肥置場に移動

陸苗代の天地返しおよび周辺の草刈 筍マーキング材の確保と加工→孟宗竹林および周辺道のチェック



堆肥置場の作業
ジュウニヒトエ



多摩のカンアオイの花

1 1) 4月16日(土) 種蒔き(粃ふり) 剪定枝等の残存物の処理 竹材置き場の整理

田極理事よりイネの種の特性についての説明あり

畝は幅1mで上下で6畝、下3畝で面積=26.5㎡、上3畝で面積=28㎡

種は1㎡に200CC 最後に真竹の支柱を立てパオパオを被せて終了



イカリソウの花



ジャガイモの害虫除去

1 2) 中央通路ののり面の草刈 (セイタカアワダチソウ) 土のう造り&中央通路の補修

強風でパオパオが吹き飛び全体の半分くらいが被害2日かけて補修

タケノコイベントについての話し合い。役割分担と決定



ホタルカズラ

一杯の散策者



1 3) 4月23日(土) 35名(うちマウンテンバイク部隊14名) 田起こしに全力投球
 マウンテンバイク部隊の強力支援で、本谷戸の田起こしは午前中に終了→支援感謝
 ☆精舎児童学園の児童たちには、第二梅林のセイタカアワダチソウの抜き取り作業をしてもらいました。
 → ありがとう!

1 4) 4月24日(日) タケノコほりイベント
 朝から雨だったが、午後に向かって雨は止むとの予報を信じ、キャンセル覚悟で準備した。しかしキャンセルなしとの報にびっくり。皆それなりの準備して、参加したのです。タケノコはまれに見る豊作で、子供達の喜びの表情見ると強引にでも実施して良かったとスタッフたちも喜んだ。怪我等もなし:



本当によく取れました。

1 5) 4月27日(水) 水路沿い草刈等
 孟宗竹林のタケノコの整理→ タケノコは3か所の穴を掘り埋める)
 萌芽更新林のなかに《キンラン》が19株もあり、きれいに花開いているのを見つけました。確か去年はなかったようにおもいますが、、、



後始末も大変ですね。
 この始末が良いから次の作業
 開始がスムーズになっています。

1 6) 4月30日(土) 東谷戸の田起こし
 耕耘機のはいれる大きな田んぼを除いてただひたすら人力で田起こし。

1 7) 5月7日(土) くろはぎ、水路の調整 くろつけ 等
 苗床のパオパオ外しと草取り、本谷戸と トトキ谷戸の<クロ剥ぎ>&<クロ付け>水路調整
 トマト苗の植付→16本(トマト苗は四方さんより提供)、第2梅林、第3梅林のタマカタカイガラムシ除去



タイコウチがいました。

18) 5月11日(水) 草刈り、他

草刈り ⇒ クラブハウス周辺及びネムノキ広場周辺と富士見台下の斜面、キウイ畑、中央通路等の草刈り及び通路の草の片づけ、萌芽更新林の管理

カボチャの苗の防虫対策、苗の虫除け用にネットで回りを囲う

19) 5月14日(土) 田んぼのくろ付け、他

田んぼのくろ付け、水路整備 ⇒ 水路に土嚢を積む等し、田んぼへの水回りを良くする、畔の草刈り

20) 5月18日(水)

茶摘み(紅茶用)、里芋植え、ほだ木の移動・ほだ場整理、マーキング材立て(保存植物の一部にマーキング)

21) 5月19日(木) 紅茶作り

大久保さんより、本日の紅茶作りの作業工程・内容について説明、手もみ、発酵、乾燥の手順で作業を進める。

22) 5月21日(土) 田んぼの荒かき、他

田んぼの荒かき、水口の整備、落花生の種まき

本年度の春の市役所のイベントスタジオの展示は6月6日～17日に決定、今後、雪下さんを総括責任者として展示内容等を詰めていく。期間もあまり無く、全員の協力が不可欠です。

23) 5月25日(水) サツマイモの苗の植え付け、他

サツマイモの苗の植え付け、本谷戸の田んぼの荒かき

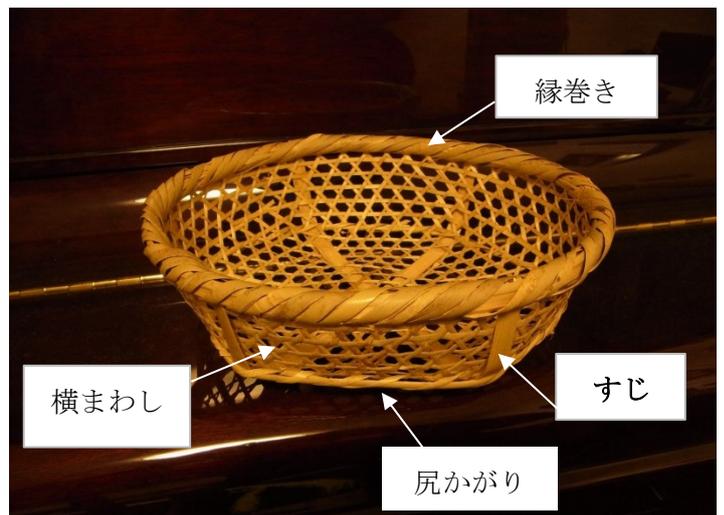
8畝(幅約21m)に40cm間隔で苗を植える(紅はるか100本、紅あずま390本、尚、紅あずまの苗10本を谷合(三郎)さんに寄贈)

24) 目籠いの話

メカイ

多摩のメカイ作りは1800年代初め、由井村字宇津貫(現在の八王子みなみ野シティのあたり)で始まったとされている。

東京府史第三卷(昭和10年発行)には『嘉永年間(1848年～53)南多摩由木村の田口久兵衛というものが由木村に伝習して



製造した』とある。また『由木村・多摩両村の如きは、全村の7割が竹細工に従事している状態である』と書かれている事から、由木村（堀之内・東中野・大塚）・多摩村（東寺方・落合・乞田・貝取・連光寺）がメカイ作りの中心地となっていた事がうかがわれる。

メカイ作りは女性が主な担い手であった。その女性達の婚姻によって技術が周辺に広がっていった。鶴川村（小野路・野津田）に伝えられたのは大正初期と言う。

メカイの売買は仲買人が一手に引き受けていて、生糸や繭の仲買を兼ねたものが多かった。

農家の農閑期の現金収入となったメカイ作りは家族総出で行うようになった。

1つの家で作るものは種類が決まっていて、生産性を上げるため男女分業が行われた。底編みから横回しまでが女性の仕事、力のいる縁巻きからすじ入れは男性の仕事となった。外皮取りなどは子供の仕事だった。

戦後、作り手の男性が外に働きに出ていくようになった時、一人で全工程をこなせる者が少なかった事がメカイ作りがされなくなった原因でもある。

横回しまで出来上がったものをハザルと言いこの段階で仲買人に売る人もいた。仲買の人はこれを仕上げの人に渡し、賃金はハザルまでの人が六分、仕上げが四分だった。

メカイの需要は暮れから正月にかけて高かった。魚屋、八百屋などがメカイをお得意様のお歳暮として送ったからだ。その為、生産農家では夜なべ仕事になる事が多かった。

大正末期から昭和の初め頃が最盛期で戦後は雑な籠から手の込んだ細かい細工ノジョウメズの需要が増えていたが大量生産のプラスチック製品が安く出回りメカイ作りは廃れていった。



メカイ作りの工程 （谷合さんに教わった基本の編み方です。）

篠竹採り：今年出た新篠を使う。旬は11月から2月まで。
（奈良ばいでは年々とする場所が減少している。）

編み材（へネ）作り：まず外皮の葉鞘を取る。それからげんこつ7個分の長さに篠を切る。次に割る。割るのは竹の頭の方からで芽を半分に割りながら4つ割りにする。そして皮をはいで行く（へぐ）。

底編み：六つ目編みと言われる編み方で、6角形の六つ目を作っていく。
（これをアヤを取ると言う。）一辺のへネの数が、16本16本15本まで編み進める。



横まわし：横まわし用のへネは長いものを用意する。15本編んだ辺から編みはじめ、角の部分は5角形のアヤを取ると腰が立ち上がって来る。らせん状に編み進め7段編む。



縁巻き：残っている縦籐を折り曲げ、中に芯としてへネをへいだ殻を入れ2目とばしに巻き込んでいく。



(講師の縁回しデモンストレーション)

すじ入れ：真竹を使い六つ目に通す竹ひごを作り、底の角から角に入れ折り曲げ縁に通す。



尻かがり：底から胴に上がる所に補強の為のへネをあてがい縁編みと同じように巻いていく。



(小竹)

完成



平ざる

25) 田んぼと周辺の名称について



赤道 かつては登記所に備え付けられた公図に赤色で着色することが義務づけられていたことにより、赤道、赤線と呼ばれるようになりました。

誰でも通れる公道です。

畦道 田んぼの間の道で、その田んぼの持ち主、奥に田んぼがあったときはその田んぼの持ち主だけが通れる道 最近はそんなこと知らない人だらけ。私もそうでした。

畔 同じく畦畔(けいはん) 田を区切るあぜ、くろとなつている、同じことを意味しているのか？

世の中には畔塗り機なるものもありますが、これは畦の側面(たんぼ側)とその上面の一部を成形している機械です。



ならばいでは、同じく田んぼ側の畦の壁を再度成形することで穴を埋め水漏れをなくし壁が崩れないように、また雑草が出てこないようにしています。「<クロ剥ぎ>&<クロ付け>」

水を温めるために田んぼの中にテビ(小さな水路のための盛土)を作ることもあります。(今はつけていません。)

2007年の報告書から代掻きの注意点の写真と説明が記載されていたので転記します。



イブリ(レーキ)は引くのではなく、押し出す要領で。



鍬も刃を上にして土を押し出します。

26) これから出てくる田んぼ作業の言葉について。

田植え 植田とも言います

苗取り その通り苗を取り一束にまとめることです、ならばいでは畑苗を取り纏めます。

(投げ入れた時に解けてしまう縛り方ではダメ)

藁(なえば) 去年の藁束を手櫛ですくように整え長さを50cmに切りそろえ濡らす

バカ苗 異常に伸びた苗: 馬鹿苗病の菌に感染した苗はホルモンの影響で、草丈が異常に伸び実をつけずに枯死します。

田の草取り クロの草を取り、土を塗り補修し足を入れるところの草を手の届く範囲で取っておく。

二次的効果 水がかき混ぜられ、根の周りの水温が上がる、根の周りに酸素がいきわたる。

稲は根を切られると、慌てて新しい根を出そうと、活性化する。

みの口 田んぼの排水堰

ぬり干し 栄養成長（茎や葉を大きくします）から生殖成長（花を咲かせ実を付けます）に移行させるために、田んぼの水を切って乾かします。

稲刈り ノコギリ鎌を使って、地面から約2～3 cm 上を刈り取る。

架け干し 稲束を馬に架けて稲を自然乾燥させる。

馬 稲木（イネなどの穀物や野菜を刈り取った後に束ねて天日に干せるように木材や竹などで柱を作り地上から干す材料が地面につかない程度の高さに横木を何本か掛けて作ったもの。地方によって稲掛け（いねかけ、いなかけ）、稲機（いなばた）、稲架（はさ、はざ、はせ、はぜ、はで）など異称も多い。）稲掛けなどというとなんと歌舞伎の斧定九郎を思い出す人もいるかもしれません。私は落語の中村仲蔵を思い出すお話です。（ちょっと横道に外れすぎました。）

27) 前回のお約束では炭焼き窯の作り方になっていました、残念ですが現行の更生ができないためもう少し後になります。

以上